

## TSURUOKA ROTARY CLUB

国際ロータリー第2800地区

## 鶴岡ロータリークラブ

平成19年9月18日(火) 第2379回(本年度第11回)例会

●創立 昭和34年6月9日

●例会日 毎週火曜日(12:30~13:30)

●例会場 東京第一ホテル鶴岡 鶴岡市錦町2-10

ROTARY SHARES  
ロータリーは分かちあいの心例会に出席し  
友情を深めよう

## 本日の卓話 (9/18)

石川 鶴岡警察署長

9月11日(第2378回)例会報告

点鐘

ロータリーソング「四つのテスト」

卓話:西郷南洲「敬天愛人」について

山形大学農学部名誉教授 加藤 功君

ゲスト:本村沙羅(R財団国際親善奨学生)

ビジター:木村有為君(鶴岡西RC)

## 会長報告 副会長 富樫 松夫

真島会長は高校英語弁論大会に参加の為、代わって会長報告をさせて頂きます。

○9/9 田川地区発明工夫展の表彰式が行われ、真島会長が参加致しました。

○9/5 クラブ会員阿部純次君のお母様がお亡くなりになりました。8日のお通夜に真島会長、9日の葬儀には本間幹事が参列致しました。ご冥福をお祈りいたします。

## ◆会長ショートスピーチ

先週東日本を襲った台風9号は、大きな爪あとを残しました。今日は三大厄日に触れたいと思います。

現在は気象学が発達し、観測技術も高度に発展していることから、台風の接近の時期が正確に予測出来るようになり、被害も昔に比べれば遙かに少なくなっています。人口衛星や高層の雲のレーダー映像などを活用できなかった昔は、台風は恐ろしい存在だったでしょう。台風が来襲する時期は収穫の秋であり、重要な農作物である米の収穫時期でもあります。台風が稲刈りの前に来るか後に来るかで、その一年の努力が水泡に帰すことすらあるわけです。また、漁を営む人達にとっても、海上で嵐に遭遇すれば生死にも関わりますので、台風を事前に

## 次回の卓話 (9/25)

## 「身近な環境問題とオゾンの有用性」

JCR 東北支店 鈴木 俊之 君

知ることは大変重要です。

こうして「嵐の来る日」として暦に載るようになったのが「二百十日」です。二百十日とは立春の日から数えて210日目ということで、同様の名前の暦日として「八十八夜」や「二百二十日」があります。

八朔(旧暦の8/1「朔日」)・二百十日・二百二十日の3日は、「三大厄日」として嵐の来襲する確率の高い「荒日」として怖れられました。その厄日を風害から守るため、「風祭り」や「風の盆」などの風俗や祭りがあります。「風祭り」は農作物を風害から守るために神に祈る祭りで、二百十日前後に行われ、獅子舞によって風神を追い払う行事や、家の棟木の両端に風切り鎌を外向きにたてる風俗も中部・北陸地方などに残っています。「風の盆」は越中八尾の風の盆、あるいは「おわら風の盆」として知られ、風神を踊りにあわせて送り出す祭りで、300年以上の歴史があるそうです。このように昔から、行事や風俗又祭りなどで季節を感じながら、災害による被害を少なくなる様に取り組んでいたようです。「災害は忘れた頃にやってくる」という言葉があるように、みんなで注意をしたいものです。

## 幹事報告

1. 每年あなたも100ドルを

2. 日本事務局連絡先情報

クラブの会長と幹事のための情報資料

「秋の交通安全県民運動」に関する実施要綱

薬物乱用防止に関する募金セット

11月末まで振込みお願いします

3. 山添高校第2学年職場体験報告会実施要綱

9/13(木) 5・6時間目 櫛引公民館

会長

真島吉也

会報委員会

副会長

富樫松夫

事務局

幹事

本間昭吉

青柳孝治 佐々木啓彦 白幡憲一郎

鶴岡市馬場町11-63 産業会館3階

TEL:0235-28-3375 FAX:0235-28-3776

卓 話

## 西郷南洲「敬天愛人」について

加藤 功

鶴岡 RC は、創立 30 周年記念事業として、西郷南洲直筆（酒井忠明氏所蔵）を刻み込んだ「敬天愛人」の石碑を建立した。場所は、市内馬場町内県指定天然記念物タブの木の縁陰メモリアルパークで、同所には犬塚又太郎氏が選文し、酒井忠明氏が揮毫した添碑碑文として次のように刻まれている。「明治戊辰の役に最後まで反撃した庄内藩が、大勢を察して降伏謝罪の礼を執った時、戦況視察のために来庄した南洲西郷隆盛翁が黒田参謀に指示して毫も戦勝の餘威を示さず公明正大寛仁にして真に王師たる処分をなされた。やがて庄内は南洲翁を師とも兄とも仰慕するに到った。敬天愛人は、翁の志操とする所として又人々への教訓とされたのである。」

旧庄内藩士達が西郷から直接聞いた教訓等を一冊の本にまとめた『西郷南洲翁遺訓集』岩波文庫刊という一冊の本がある。なぜ庄内で出版されたかは、石碑の選文でも一部述べられている。“庄内藩は、明治維新の前夜、三田の薩摩屋敷を焼き払い、多くの死傷者を出した。そして賊軍として奥羽連藩同盟を組み皇軍・明治政府に最後まで抵抗した。庄内藩の降丈処理として、厳しい処罰があるものと心配していた処、西郷の慈愛を持った寛大な処置になった。それに感謝した庄内藩士（酒井氏）は、家老を含む七十数名を伴い、政府の要職を去り鹿児島に引退していた西郷を訪れて親しく教え受け、その後も庄内藩士が西郷先生を訪れ、生前語られた言葉や教訓を記録した手記を、持ち帰って遺訓集を作成した。”

「第二十四ヶ条（敬天愛人）」：道は天地自然の物にして、人は之を行うものなれば、天を敬するを目的とす。天は人も我も、同一に愛し給ふゆえ、我を愛する心を以て人を愛する也。|

現代訳：道は天地自然（おのずからなる）ものであり、人は之にのっとって生きる（行う）ものであるから何よりも先ず、天を敬う事を目的とすべきである。天は他人も自分も平等に愛し下さるから、自分を愛する心をもって人を愛する事が肝要である。

「敬天愛人」とロータリーの精神「四つのテスト」はまさしく合致していると思える。

○道徳水準や人としての品格は勿論、地域や国家の品格を高めるために大いに役立っている

○庄内藩士が西郷隆盛と出会い、庄内の人々にも多

大な影響を及ぼしたことは紛れもない事実である。○自由、平等、博愛の民主政治は国家の基本精神であり、特に人間平等の精神は国際間の理解と親善と平和を推進する礎である。

○鶴岡 RC は今後もそれを実践哲学とし、さらに日常活動の指針として持ち続けて行きたい。その際、姉妹クラブ鹿児島西 RC とは相変わらず親交を深めていきたいものと思う。

ごあいさつ

R 財団奨学生 本村沙羅

埼玉大学4年本村沙羅と申します。財団奨学生として合格できてうれしく思っております。カナダの大学院でジャーナリズムを専攻、国際理解を深め、ロータリーの親善大使として頑張りますので、今後共よろしくお願ひいたします。

委員會報告

親睦委員會

スマイル

佐藤 孝子君 加藤 功君 石田 雄君

出席委員會

•出席報告 (9/11)

会員数	出席	出席率	前々回 確定出席率
46名	29名	67.44%	72.09%

## ●メイクアップされた方

藤川君 樋渡君 加藤(恒)君 丸山君 真島君  
御橋君 嶺岸君 越智君 斎藤(昭)君 佐々木君  
佐藤(孝)君 佐藤(友)君 白幡君 富樫(松)君  
塚原君

# column コラム ~ 絆 きずな

勘違いからの出発

御橋先生から突然の電話。「ロータリーの地区大会でパネラーになってくれ。テーマは親は子に何を伝えるかです。」退職したばかりの頃でした。教育現場でいう「地区」とは田川地方の事であり、校長の数も、63名程。数からしても座談会のようなものだ。しかも、御橋先生は、現職時代の大先輩であり、断っては失礼になると、パネラーを引き受けた。準備を進めていくうちに、地区大会とは、県大会のことであり、参加者は1000人を超えるということがわかつたが、すでに、後の祭りであった。

その後、慰労の電話とともに、加入の誘い。金持ちの集団としか認識していないロータリーの会員になつた。佐々木先生、石田先生と教育界で名をあげているお二人もあり、恐縮しながら、語らいを楽しんでいる。(樋渡美智子)